

伊丹ルーテル教会 聖霊降臨後第十三主日礼拝 2020年8月30日

前奏：

招きのことば：詩編 26:1-8

【ダビデの詩】主よ、あなたの裁きを望みます。

わたしは完全な道を歩いてきました。主に信頼して、よろめいたことはありません。

主よ、わたしを調べ、試み はらわたと心を火をもって試してください。

あなたの慈しみはわたしの目の前にあり あなたのまことに従って歩き続けています。

偽る者と共に座らず 欺く者の仲間に入らず 悪事を謀る者の集いを憎み

主に逆らう者と共に座ることをしません。

主よ、わたしは手を洗って潔白を示し あなたの祭壇を廻り

感謝の歌声を響かせ 驚くべき御業をことごとく語り伝えます。

主よ、あなたのいます家 あなたの栄光の宿るところをわたしは慕います。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。

思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちが救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。

(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

あなたはわたしたちにイエス様による救いを与えてくださいます。イエス様はご自分を犠牲にして、十字架で死んで私たちの罪をゆるし、三日目によみがえって私たちに主に従う苦勞と喜びへと導いてくださいます。私たちは人間的に楽な道を求めます。人の苦しみに目をつぶってまず自分を守ります。自分は苦しまないようにしたいと考えます。人にアドバイスをするときもほどほどに生きるようにと言ってしまいます。苦勞の少ない華やかさに目が移ります。自分を守り、人の犠牲にならないように生きる自己中心な私たちをイエス様は作り変えてくださいます。ご自分の命を私たちのためにお与えくださり、罪を赦して、新しい心を与えてくださいます。人のことば、人の考えに左右され、ほんとうの救いと生きる道を見ないで中途半端に生きようとする私たちですが、あなたは今朝もみ言葉に根差す信仰を、私たちの内に新しく作ってください。今週も、おちついて、愛をもって、人々の役にたって歩む苦勞と喜びの一週間としてください。あらゆる危険やわざわいから私たちをお守りください。

新型コロナ・ウィルスの2次感染拡大の心配を持ちながら、私たちは慎重に新しい生活を立てあげようとしています。今朝もあなたのみ言葉によって私たちを教え、新しい命の息吹で力づけてください。今週も、私たちの遣わされている所で、御名のみ栄のために歩ませてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：ローマ 12章 9-21節

愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れず、兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。怠らず励み、霊に燃えて、主に仕えなさい。希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。聖なる者たちの貧しさを自分のものとして彼らを助け、旅人をもてなすよう努めなさい。あなたがたを迫害する者のために祝福を祈りなさい。祝福を祈るのであって、呪ってはなりません。喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。互いに思いを一つにし、高ぶらず、身分の低い人々と交わりなさい。自分を賢い者とうぬぼれてはなりません。だれに対しても悪に悪を返さず、すべての人の前で善を行うように心がけなさい。できれば、せめてあなたがたは、すべての人と平和に暮らしなさい。愛する人たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい。「『復讐はわたしのすること、わたしが報復する』と主は言われる」と書いてあります。「あなたの敵が飢えていたら食べさせ、渴いていたら飲ませよ。そうすれば、燃える炭火を彼の頭に積むことになる。」悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。

福音書朗読：マタイによる福音書 16章 21-28節

このときから、イエスは、御自分が必ずエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっている、と弟子たちに打ち明け

始められた。すると、ペテロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません。」イエスは振り向いてペテロに言われた。「サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている。」それから、弟子たちに言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを得る。人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。人の子は、父の栄光に輝いて天使たちと共に来るが、そのとき、それぞれの行いに応じて報いるのである。はっきり言うておく。ここに一緒にいる人々の中には、人の子がその国と共に来るのを見るまでは、決して死なない者がいる。」

讚美歌 529 番

1. ああ うれし、わが身も 主のものとなりけり、うき世だに さながら、あまつ世の心地す。

〈繰り返し〉 歌わでやあるべき、救われし身のさち、

たたえでやあるべき、み救いのかしこさ。

2 残りなく みむねに まかせたる心に えも言えずたえなる まぼろしを見るかな。

〈繰り返し〉

3. 胸の波 おさまり、心いと静けし、我もなく 世もなく ただ主のみ いませり。

〈繰り返し〉

アーメン

説教：「たとえ全世界を手に入れても」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

あなたは何を求めてイエス様のもとに来ておられますか。「あなたはわたしを誰とよいか」、とイエス様に問われて、ペテロは「あなたこそ生ける神の子救い主です」と答えました。ペテロは救い主であるイエス様のもとに、救いを求めてきていました。

イエス様はそのペテロをほめてくださいました。さらに、そのような信仰や期待は、天の父なる神様から与えられたものです、わたしはあなたのそのような硬い岩のような信仰告白を土台として、わたしの教会をたてます、と言われました。私たちはイエス様に救いを求めてくるのですが、その信仰は実は神様が私たちにお与えくださっている信仰なのです。

先週はそのようなペテロに与えられた信仰をご一緒に味わいました。ところが、それに続く今日の聖書箇所ではペテロが極端にしかられています。悪魔呼ばわりされています。イエス様の強いことばはペテロとそこにいた弟子たちに大きな衝撃でした。

なぜそんなに激しく叱られたのでしょうか。イエス様は私たちを愛し、私たちに赦しといのちを惜しみなくあたえてくださるのではないのでしょうか。ついさきほどイエス様はペテロの信仰告白を喜ばれたのではなかったのでしょうか。

それは、ペテロやお弟子たちに、イエス様を生ける神の子、救い主と信じる信仰の内容と、それにこたえて弟子として生きる生きがいのある人生の歩み方を教えるためでした。イエス様はこの世が与える喜びや安らぎではなく、一見それに反するよう見えることもあるイエス様の与える救いと信仰生活を、ここでペテロに教えておられます。

いきさつはこうです。イエス様はペテロの信仰告白にとても喜ばれ、そのときからエルサレムをさして歩むようになりました。そのときからイエス様は弟子たちにご自分の歩まれる救いの道をお話になりました。「わたしはイスラエルの指導者たちに苦しめられ、異邦人にわたされて殺され、そして三日目によみがえる。」と言われました。ペテロは反発しました。「イエス様、そんなことを言わないでください。」なぜかといいますと、ペテロは、イエス様が当時のローマ帝国の支配下であったイスラエルの民を、独立した自由で偉大な国にしてくれる人が救い主だと考えていたからです。その救い主がエルサレムに行って殺されてしまったら、それは救いに失敗することだと思いましたが、イエス様がそんな苦しみや死を経験されることは忍びないことと思ったのでしょうか。

ここにペテロの根本的な間違いがありました。イエス様はイスラエルの民にこの世での生活の安定や平和を与える救い主ではありません。イエス様はすべての人々に罪の赦しと新しいいのちをあたえる救い主です。人々が神様から遠く離れて、互いにねたみあい、憎みあい、復讐を繰り返したりする汚い心、またいろいろな苦しみや失望のためやりきれなくなって生きる力や希望をもたなくなっている心、人とのつながりを大切にす愛が冷えてしまっている心に救いを与えるため救い主です。世界の人々が新しい命を与えられなければ、一時的な繁栄や自由は朝露のようにはかなく消え去ってしまうからです。

イエス様は私たちが神様から離れて自分でどうにもできない不信仰と自分中心のために、神様の前でご自分が身代わりに死んで、その罪の裁きをご自分の身に負ってくださいました。そして洗礼によって神様の公の罪の赦しを私たちにお与えくださいます。さらに、洗礼は死からよみがえってくださったイエス様の復活のいのちにあずかるものとしてくださいます。今まで、自分が犠牲にならないように必死で自分をまもり、自分が充実した人生を送ることができるよ

うにと夢にしがみついていた心の思い込みをかえて、イエス様が歩まれたように自分のいのちをかけて人々のために歩む人生の充実した苦勞と喜びにめざめさせていただきます。試練や誘惑や死の恐れにも動じない、死んでも生きる希望と喜びに生かしていただきます。

このように、イエス様はこれから「生ける神の子、救い主」として、指導者たちに苦しめられ、異邦人にわたされて殺されて、三日目によみがえってくださるためエルサレムに向かう、と言われたのです。しかしペテロやお弟子たちはそのことが全くわかっていませんでした。イエス様はそんなペテロに「あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている」と諭したのです。

あなたの祈りはいかがでしょうか。あなたは今週もいろいろなことがあるので、守ってください、支えてください、ともにいて導いてください、と祈ることがあるでしょう。イエス様はしかし、あなたの自分で変えることができない心を、あなたの救い主として救うために来てくださったのです。自分の罪を棚上げして、自分の計画を祝福してください、と祈る矛盾をお感じになることができるでしょうか。イエス様は柔らかい言葉では間違いに気づかない私たちに、強い言葉で、しかし愛をもってお語りくださいます。

ペテロは十字架にかかるためにエルサレムに行こうといわれたイエス様に、そんなことがあってはいけません、と決意をくじこうとしました。イエス様はそんなペテロをわたしを邪魔する者、つまづきの石、と言われました。イエス様は救い主としての思いをくじこうとする誘惑に何度もさらされました。ヨハネから洗礼を受けて荒野で悪魔の誘惑を受けた時、悪魔はわたしをおがんだらあなたに世界を与える、と言って、イエス様にとって苦しまないで世界を救うことができるという偽りの約束で誘惑しました。十字架の直前のゲツセマネの園で祈られた時も、イエス様は血の汗を流して苦しみもだえ、この苦しみを受けないでよいならそうさせていただきます、しかしわたしの考えではなく父なる神様のみむねの通りになりますように、と誘惑と闘って祈りました。ペテロの「そんなことがあってはなりません」ということばをイエス様はわたしを躓かせる石だと言われました。ペテロの信仰告白は岩のようですが、ペテロの人間的な思いはつまづきの石なのです。

私たちの救い主であるイエス様は、私たちの罪の赦しのために欠かすことができない十字架の苦しみと死を受けてくださいました。また、その後、この世の敵ではなく、罪と死と悪魔という、私たちをいつまでも恐怖で縛り、滅びへと連れ去ろうとする力に勝利をして、よみがえってくださいました。そしてイエス様を生ける神の子、救い主と信じる信仰を通して、私たちは罪の赦しと新しいいのちに今日もあずかります。ペテロは何度も疑い、失敗を重ねましたが、イエス様は見放さず、見捨てず、聖霊を与えて、力強いイエス様の証し人として、使徒として

生涯を導いてくださいました。私たちがイエス様を生ける神の子、救い主と告白する岩のような信仰告白によって歩みましょう。

さて、イエス様は弟子たちに、自分の十字架を負ってわたしに従ってきなさい、と言われました。自分の命を豊かにするため歩むものはそのいのちを失い、イエス様のために自分のいのちを失うものは自分の命を得る、と言われました。

みなさん、イエス様に罪赦されて、新しい心をいただいた私たちは、自分の十字架を負ってイエス様に従っていきましょう。自分の生活の安定を第1に考えて、利益をとまなわな自己犠牲はできるだけ避けて歩みたいのが人情です。しかし、イエス様は一度の人生をそのように歩むと、ほんとうの喜びやいのちを失うことになるといわれます。それは悪魔の誘惑なのです。そのような喜びは一時的なもの、たとえ全世界を手に入れたとしても、ひとときの陶醉感をあじわうかもしれませんが、まことにはかないものです。

そうではなく、たとえ犠牲を伴い、苦痛をとまなっても、また、そこまでしなくても甘いことばで思いをくじかれそうになり、無駄ではないか、と自分でも揺らぐことがあっても、イエス様のように人を生かすために苦しみ犠牲になることほど、素晴らしい人生はありません。苦労とともに永遠の喜びがあります。

今週は、中途半端な献身へといざなう悪魔のささやきと闘って打ち勝ってくださったイエス様のいのちをいただいて、自分の十字架を負ってイエス様の弟子として歩む、豊かな一週間を送りましょう。神様の前に罪赦され神の子とされました。わたしたちのいのちは救いの感謝と、人々へのとりなしです。神様が豊かに祝福してくださいますように。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン。

讚美歌 355 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 主を仰ぎ見れば 古きわれは うつし世と共に 速(と)く去りゆき
我ならぬわれの あらわれきて、見ずや天地(あめつち)ぞ あらたまれる。
- 2 美しの都、エルサレムは 今こそくだりて われに来つれ。
主ともに在(いま)せば つきぬさは きよき河のごと 湧きてながる。
- 3 うるわし慕わし とこ世のくに、うららに恵みの 日かげ照れば、
生命の木(こ)の実は みのりしげく、とわの死の影も なやみもなし、
- 4 つゆだに功(いさお)の あらぬ身をも 潔めてみくにの 世嗣(よつぎ)となし、
黄金(こがね)のみとのに 住ませたもう わが主の愛こそ 限りなけれ。 アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。 **アーメン**

頌栄：讃美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、ああ御栄(みさか)えよ。 **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏